

# 都市再生整備計画 事後評価シート

こまきえきしゅうへんちく  
小牧駅周辺 地区

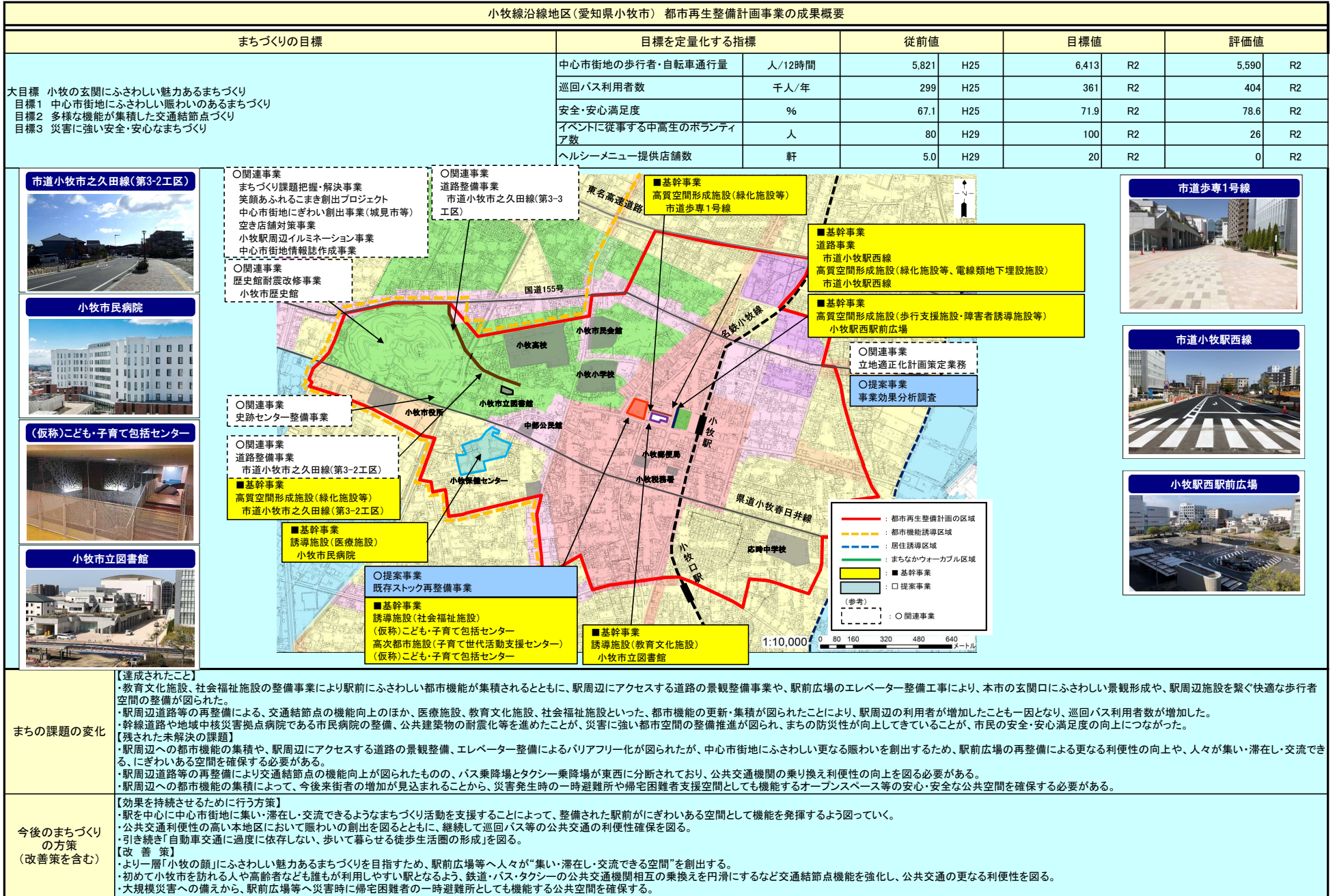
令和3年3月

愛知県小牧市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県	市町村名	小牧市	地区名	小牧駅周辺地区			面積	300ha				
交付期間	平成27年度～令和2年度	事後評価実施時期	令和2年度	交付対象事業費	6,057.4	国費率	0.5						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(小牧駅西駅前広場、市道小牧駅西線)、高質空間形成施設(緑化施設等3路線)、中心拠点誘導施設(小牧市民病院、小牧市立図書館)										
		提案事業											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路:小牧駅西駅前広場、高質空間形成施設(緑化施設等):小牧駅西駅前広場		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	-		-			-					
	新たに追加した事業	基幹事業	高質空間形成施設(緑化施設等):市道歩専1号線 高質空間形成施設(電線類地下埋設施設):市道小牧駅西線 高質空間形成施設(歩行者支援施設):小牧駅西駅前広場 高次都市施設:(仮称)こども・子育て包括センター 中心拠点誘導施設(社会福祉施設):(仮称)こども・子育て包括センター		・(緑化施設等):市道歩専1号線、歩行者支援施設:小牧駅西駅前広場:H31~H32に建設工事を行う小牧市立図書館と同調して整備を行うことにより、事業効果の増進が見込まれた。 ・(電線類地下埋設施設:市道小牧駅西線):道路事業に位置づけていた電線共同溝は、要請者負担方式で行うことが確認になった。 ・(仮称)こども・子育て包括センター:利便性の高い駅近郊の既存建物への移設により利用者数増加の課題解決が見込まれた。			・(仮称)こども・子育て包括センター:指標1(中心市街地の歩行者・自転車交通量)、指標3(安心・安全満足度)を目標値増として変更。					
提案事業		地域創造支援事業:既存ストック再整備事業、事業活用調査:事業効果分析調査(小牧駅周辺地区)		社会資本整備総合交付金から都市構造再編集中支援事業への制度変更による提案事業への移行			・指標(中心市街地の歩行者・自転車交通量)、指標3(安心・安全満足度)を目標値増として変更。						
交付期間の変更	当初	平成27年度～平成31年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	指標1(中心市街地の歩行者・自転車交通量)の目標値の変更:目標値を事業の実施状況と指標の推移から再設定。 指標2(巡回バス利用者数)の目標値の変更:目標値を事業の実施状況と指標の推移から再設定。									
変更	平成27年度～令和2年度												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期		
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み					
	指標1	中心市街地の歩行者・自転車交通量	人/12時間	5,821	H25	6,413	R2	5,854	5,590	×	あり なし ●	誘導施設整備や道路整備など未完了であることから、評価時点での来館者の通行が見込めなかったことや、駅前広場、駅にアクセスする道路等の整備工事による歩行者導線が変動的になっていたことなどから、歩行者・自転車交通量の増加につながらなかった。	令和3年12月
	指標2	巡回バス利用者数	千人/年	299	H25	361	R2	317	404	○	あり なし ●	医療、社会福祉施設の整備や、利用者ニーズを踏まえたバスコースの見直し等により、巡回バスの利用者増加した。	令和3年5月
	指標3	安全・安心満足度	%	67.1	H25	71.9	R2	57.8	78.6	○	あり なし ●	地域中核災害拠点病院である市民病院の整備事業等によるまちの防災性向上により、市民の安全・安心満足度の向上につながった。	令和3年10月
	指標4	イベントに従事する中高生のボランティア数	人	80	H29	100	R2	80	26	×	あり なし ●	都市再生整備計画に位置付けた各種のハード整備を進め、にぎわいの創出に向けた土壌は整ったものの、市民の自発的なまちづくり活動やボランティア活動への参加の誘発には至らなかったと考えられる。	令和3年12月
指標5	ヘルシーメニュー提供店舗数	軒	5	H29	20	R2	5	0	×	あり なし ●	小牧市立図書館や、駅から施設にアクセスする道路整備事業等と関連した沿道店舗等の賑わい創出の取り組みが不十分であったことから、駅周辺の回遊しやすくなる取組みとしてのヘルシーメニュー提供店舗の増加にはつながらなかった。	令和3年9月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期		
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み					
その他の数値指標1	計画区域内居住人口	千人	19.5	H25				20.2			駅周辺へアクセスする道路の景観整備や、(仮称)こども・子育て包括センターの整備が進み、子育て世代に魅力があり、中心市街地に相応しい賑わいや、安全・安心で快適な居住空間が創出され、計画区域内人口の増加につながった。	令和3年10月	
4)定性的な効果発現状況	・小牧駅を中心とした都市機能の更新・集積により、駅周辺でのマンション建設が進み、街なかでの人口増加に寄与している。												
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況							
	モニタリング	【交付期間中の計画の監理】 ・交付期間中は、都市整備課が中心となり、定期的に事業進捗状況や、事業進捗上の問題点について関係各課と連携して確認することにより、事業遅延等のリスクを削減させる。					都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス	【まちづくりの住民参加】 ・公共施設整備等について、計画段階からワークショップ手法による住民参加を行い、施設内容だけでなく、施設の維持・管理についても住民自らが実施する方策と体制づくりを住民主体で実施する。					都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なまちづくり体制の構築	・市民活動、ボランティア活動、地域活動、生涯学習活動等の情報提供等による市民がまちづくりに参画しやすい体制づくり					都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

様式2-2 地区の概要



**まちの課題の変化**

【達成されたこと】  
 ・教育文化施設、社会福祉施設の整備事業により駅前がにぎわいある都市機能が集積されるとともに、駅周辺にアクセスする道路の景観整備事業や、駅前広場のエレベーター整備工事により、本市の玄関口にふさわしい景観形成や、駅周辺施設を繋ぐ快適な歩行者空間の整備が図られた。  
 ・駅周辺道路等の再整備による、交通結節点の機能向上のほか、医療施設、教育文化施設、社会福祉施設といった、都市機能の更新・集積が図られたことにより、駅周辺の利用者が増加したことも一因となり、巡回バス利用者数が増加した。  
 ・幹線道路や地域中核災害拠点病院である市民病院の整備、公共建築物の耐震化等を進めたことが、災害に強い都市空間の整備推進が図られ、まちの防災性が向上してきていることが、市民の安全・安心満足度の向上につながった。

【残された未解決の課題】  
 ・駅周辺への都市機能の集積や、駅周辺にアクセスする道路の景観整備、エレベーター整備によるバリアフリー化が図られたが、中心市街地にふさわしい更なる賑わいを創出するため、駅前広場の再整備による更なる利便性の向上や、人々が集い・滞在し・交流できる、にぎわいある空間を確保する必要がある。  
 ・駅周辺道路等の再整備により交通結節点の機能向上が図られたものの、バス乗降場とタクシー乗降場が東西に分断されており、公共交通機関の乗り換え利便性の向上を図る必要がある。  
 ・駅周辺への都市機能の集積によって、今後来街者の増加が見込まれることから、災害発生時の一時避難所や帰宅困難者支援空間としても機能するオープンスペース等の安心・安全な公共空間を確保する必要がある。

**今後のまちづくりの方策(改善策を含む)**

【効果を持続させるための方策】  
 ・駅を中心に中心市街地に集い・滞在し・交流できるようなまちづくり活動を支援することによって、整備された駅前がにぎわいある空間として機能を発揮するよう図っていく。  
 ・公共交通利便性の高い本地区において賑わいの創出を図るとともに、継続して巡回バス等の公共交通の利便性確保を図る。  
 ・引き続き「自動車交通に過度に依存しない、歩いて暮らせる徒歩生活圏の形成」を図る。

【改善策】  
 ・より一層「小牧の顔」にふさわしい魅力あるまちづくりを目指すため、駅前広場等へ人々が「集い・滞在し・交流できる空間」を創出する。  
 ・初めて小牧市を訪れる人や高齢者なども誰もが利用しやすい駅となるよう、鉄道・バス・タクシーの公共交通機関相互の乗換えを円滑にするなど交通結節点機能を強化し、公共交通の更なる利便性を図る。  
 ・大規模災害への備えから、駅前広場等へ災害時に帰宅困難者の一時避難所としても機能する公共空間を確保する。